

皆さん、おはようございます。

6月もあっという間に過ぎ、夏の日差しとともに7月となりました。

新年度が始まってから3カ月が経過しましたが、今日のこの日は「平戸市職員自戒の日」です。

これは言うまでもなく過去に市職員によって発生した「不祥事」の後に、重大な使命と責任をもって行政を行なう市職員が、公務員として市民の皆様への期待と信頼にしっかりと応えることが出来ているかどうかについて改めて自己反省を行う日です。

また、これら過去の不祥事によって市内外の多くの皆様方の信頼を大きく失墜したことを決して忘れることなく、事件に関係の有る無しに関わらず、改めて自らのこれまでの業務内容や組織内外の人間関係を振り返り、決意も新たに任務の遂行を果たすための誓いを共有することです。

今のところ職員各位の自覚によって再び市民の皆様への信頼を失墜させるような深刻な事案は見受けられませんが、ちょっとした油断や自分への甘さ、「このくらいいいさ」とか「そのうちにやるから今でなくても・・・」という緊張感の欠如が後になって取り返しのつかない不祥事の種になりかねません。

人間とは悲しいもので、慣れた頃にこそ傲慢さが出てきたり、油断したりするものです。気を引き締めて決意を新たにしていまいりましょう。

さて先月開催された定例市議会において補正予算など本年度の事業推進に不可欠な議案が了承され、次のステップとしていよいよ具体的な施策展開に移行してまいります。

そのうち幾つかの事業は、ふるさと納税寄附金による「やらんば平戸応援基金」を活用したものもあり、本市が抱える深刻な課題としての人口減少抑制強化策にも位置づけられているものが多くあります。そうした事業展開、つまり「貴重な税金の使い方」については、多くの市民のみならず寄附者を含めた全国の方々が注目しています。「日本一のふるさと納税を集めた平戸市は、どのような施策にこれを活用し全国の寄附者の期待に応えるのだろうか」と厳しい視線が注がれているという自覚をもってください。そして、用意された各種事業によってもたらされる市民の喜びや感激をいかにして寄附者の皆様を含め全国に発信できるかが、新しいまちづくりの重要な要素でもありますし、一部このふるさと納税制度に懐疑的なご意見を述べられる方々への説明責任を果たす使命も帯びていると確信しています。

「やらんば平戸応援基金」をどのようにまちづくりに役立てるかは行政組織全体の重要な責務と認識し、これに惜しまない努力を注いでくださった返礼品供給者の次なるご期待に応えるためにも努力を重ねていきたいと思っております。

さて、7月最初の大きな山場は、このふるさと納税に関する一大イベントとして開催される「ふるさと納税サミット in 平戸市」です。これは、昨年度の寄附額の大きさで全国ベスト5に入った九州の3自治体（佐賀県玄海町、宮崎県綾町と平戸

市)が専門ポータルサイト「ふるさとチョイス」と連携し主催する文字通り第一回目のサミットでもあります。都市部の寄附者と地方の生産者や行政関係者がタッグを組んで成し遂げた「ふるさと納税制度」を軸にしたまちづくりに関する協議の場を平戸市で開催できる喜びを噛み締めながら、今後のさらなる展開に向け新たな知恵と力が結集できるような有意義なサミットにしてまいりたいと思いますので、職員各位のご協力をよろしくお願いいたします。

さらに本市は現在、観光統計に裏付けられた交流人口の増大やふるさと納税などの実績とともに、内外ともに「元気で活力が感じられ、魅力ある自治体になっている」との高い評価をいただいています。

先日は、今や世界的に著名な写真家であり平戸市名誉市民でもある栗林慧先生が撮影されTBSによって映画化された『アリのままでいたい』の試写会が本市で開催され多くの子どもたちによって昆虫の生態が、今までに見たことのない瞬間やクリアな映像によって感動的に表現され大きな評価が寄せられています。

また、全国ロードショーに先駆けて先日秋篠宮悠仁親王殿下がご両親とともに、文字どおり身乗り出してご覧になった事が大きく報道されたこともあって、今後においてその素晴らしい自然に恵まれた平戸市にも大きな期待をもって、多くの家族連れや団体の観光客が押し寄せることが予想されます。

一方、国内大手旅行会社JTB九州支社は、この夏の観光商品として「平戸であそぼう」と題したいくつものコースを設定してくださり、今回新たに企画しました平戸城や松浦史料博物館における「お化け屋敷」をはじめシーカヤック体験や漁師体験など雄大な海を舞台にダイナミックな思い出づくりを家族で楽しめるメニューが提案されています。

九州大手進学塾の「英進館」も、恒例の合宿を催行してくださる予定でもありますし、市民一丸となってこうした若い世代や子どもたちへのおもてなしを徹底し、平戸市を「夏のふるさと」と思ってもらえるよう鋭意頑張ってまいりましょう。

各地域において実践しているコミュニティづくりも徐々に運営組織が形成されつつありますし、地域おこし協力隊の隊員各位もそれぞれの立場で問題意識を感じながら地域に溶け込み努力している様子です。

こうした幾重にも広がる平戸への期待をしっかりと受け止め、私たち自身がその魅力と可能性を研ぎ澄ませながら市民の皆様とともに、さらなる波及効果をもたらすべく頑張っていかなければなりません。そのことがそのまま人口減少抑制強化策につながるものと確信しています。

改めて「自戒の日」の意味を胸に刻みながら、更なるチャレンジに向けて新たな決意のもと頑張らしましょう。

平成27年7月1日

平戸市長 黒田成彦